

保育所の自己評価

令和6年度

新栄保育園

＜評価方法＞ 理解度・実施度 A(80%～) B(50～80%) C(20～50%) D(0～20%) E(職務担当外)

①	第1章 総則 1 保育所保育に関する基本原則	A	B	C	D	評価点	課題点+改善策
1	保育所は子どもの幸せのための施設であり、社会や家庭の利益ではなく、子どもの最善の利益を考慮する場であるという事を知っている。	86%	14%	0%	0%	保育所における養護の意味や養護と教育を一体的に行わなければならない事、また保育所は、子どもの最善の利益を考慮する場である事の理解度が高くなってきた。子ども自身が人との関係を作り、子ども同士の関係が発展するような関わり方を保育者一人ひとりが心がけていくようになってきた。	子どもが自分の感情や意見をもち、やりたいことを自分で決められるような環境を整える事の評価が低いので、子どもが自分から環境に関わり、自発的に活動し、さまざまな経験を積んでいくことができる環境構成・保育内容を工夫していく。
2	保育所は養護と教育を一体的に行い、養護の部分では「生命の保持及び情緒の安定」教育の部分では「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」という5領域で目標が示されている事を知っている。	73%	24%	3%	0%		
3	保育者が主導的に何かをやらせるのではなく、一人ひとりの発達過程や個性を見据え、子どもが自分の感情や意見をもちやりたいことを自分で決め、やりたいことが存分にできる環境を整え保育を行なっている。	41%	47%	13%	0%		
4	自発的な活動への意欲を引き出せるよう、遊具や用具は固定ではなく、その種類や数、配置なども工夫をし同時に保健・衛生的な視点で環境のチェックも行い、動と静の活動も考慮して保育を行なっている。	42%	45%	13%	0%		
5	子ども自身が人との関係をつくっていけるように、子どもたちがいろいろなやり取りをするのを見守り、ときには仲立ちをし子ども同士の関係が発展するように関わり保育を行なっている。	60%	34%	6%	0%		
②	第1章 総則 2 養護に関する基本的事項 3 保育の計画及び評価 4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項	A	B	C	D		
6	子どもの気持ちを丁寧に理解し寄り添い、登園した子どもがほっとするような優しく温かい空間を意識して、養護的環境を崩さないように保育者の言葉が指示や禁止にならないよう気を付けて保育を行なっている。	64%	36%	0%	0%	日頃、保育者の子どもへの声掛けや接し方をみても、子どもがほっと安心するような優しく温かい空間を意識して保育している姿が伺える。	育てほしい(10の姿)への理解は得られるが、それをどのように保育に取り入れたらいいのかの評価が低い。今後、園内研修を行いながら、10の姿を意識した保育の方向性やかかわり方を、明確にしていく。
7	子どもの「やりたい」気持ちを尊重しながら時間的にも空間的にもゆとりのある環境の中で、一人ひとりが自然にリズムをつくっていけるように心掛けて保育を行なっている。	58%	36%	6%	0%		
8	応答的な触れ合いや言葉掛けを行い気持ちを受容し共感しながら信頼関係を築いて、子どもが主体的に活動できるよう見守ったり働きかけをする中で適切な食事や休息が取れるよう保育を行なっている。	52%	39%	6%	3%		
9	全体的な計画や指導計画は、園の目標や目指す子どもの姿、発達過程や主体的な活動、生活リズムなども意識して計画をつくり、それを実行してうまくいっているかどうかの評価をし計画に改善を加えている。	40%	56%	4%	0%		
10	遊びや生活の中で、何かに気付いたり、できるようになったり、試したり、伝え合ったりしながら子どもたちの中にどういった心情、意欲、態度が育っているのかを見極めて支援をし保育を行なっている。	43%	46%	6%	6%		
11	幼児期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)は到達目標でも幼児期の終わりの完成形ではなく、毎日の保育の積み重ねがその姿につながっていくことを意識して保育を行なっている。	43%	46%	6%	6%		
12	子どもの発達を見ながら「10の姿」をどのように保育に取り入れたらいいのかを知り保育を行なっている。	18%	62%	18%	3%		
③	第2章 保育の内容(前文) 1 乳児保育に関わるねらい及び内容	A	B	C	D		
13	保育における「養護」とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者等が行う援助や関わりであるという事を知っている。	73%	22%	3%	3%	養護や教育の保育の内容を理解できてきている。応答的な関わり方も意識して保育できるようにってきた。	乳児保育の「ねらい」及び「内容」は3つの視点から展開されていることへの理解度が低い。未満児クラスはパート職員が多く配置されているが、パート職員の研修が少ないので、研修に行けなくても学べる場を提供していく。
14	「教育」とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助であるという事を知っている。	70%	24%	3%	3%		
15	特定の大人との応答的な関わりを通じて情緒的な絆が形成されるといった特徴があることを知り、愛情豊かに、応答的に保育を行なっている。	67%	25%	8%	0%		
16	乳児保育の「ねらい」及び「内容」は身体的発達に関する視点、社会的発達に関する視点、精神的発達に関する視点の3つの視点で展開され示されている事を知っている。	50%	33%	11%	6%		
17	健やかに伸び伸びと育つ、身近な人と気持ちが通じ合う、身近なものに関わり感情が育つ各ねらいと内容を2つは理解して保育を行なっている。	49%	31%	14%	6%		
18	一人ひとりの子どもの生育歴の違いに留意しつつ、欲求を適切に満たし特定の保育士が応答的に関わるように努めている。	53%	38%	3%	6%		
19	保護者との信頼関係を築きながら保育を進めるとともに保護者からの相談に応じ保護者への支援に努めている。	47%	33%	13%	7%		
④	第2章 保育の内容 2 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容	A	B	C	D		
20	つまむ、めくるなどの指先の機能も発達していくので食事、衣服の着脱なども保育士の援助の下で自分で行えるように保育を行なっている。	68%	21%	9%	3%	身の回りのものへの興味や関心が大きく広がりがり行動範囲もどんどん広がっていく中で、発達過程を見極めて保育をしている姿がみられる。	5領域のねらい、内容の理解度が低い。その為、クラス会議や勉強会などで、対話による情報や理解を共有し環境を整え5領域を意識した保育を行っていく。子どもの情緒が安定できるような関わり環境構成が上手くできずに子どもの主体的な遊びを見逃している傾向がある。子どもとじっくり向き合い関わりの中で、子どもの思いや興味関心のあることを感じられるよう研修等で学び合えるようにする。
21	保育者の身体的な関わりを伴う養護的な場面が多いが、子どもが経験していることに注目すると教育的な側面が見えてくるので、3歳以上児の生活へと緩やかにつながっている事を知っている。	58%	31%	6%	6%		
22	健康、人間関係、環境、言葉、表現の各ねらいは2つ、内容は3つは理解し保育を行なっている。	34%	43%	14%	9%		
23	探索活動が十分できるように事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身を使う遊びなど様々な遊びを取り入れて保育を行なっている。	52%	38%	7%	3%		
24	自我が形成され、子どもが自分の感情や気持ちに気付くようになる重要な時期であることに鑑み情緒の安定を図りながら、子どもの自発的な活動を尊重するとともに促す保育を行なっている。	38%	47%	9%	6%		

⑤	第2章 保育の内容 3 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容 4 保育の実施に関して留意すべき事項	A	B	C	D		
25	仲間と遊び、仲間の中の一人という自覚が生じ、集団的な遊びや協同的な活動も見られるようになるので、発達の特徴を踏まえて、個の集団としての活動の充実が図られるように保育を行なっている。	48%	39%	3%	10%	発達の特徴を踏まえて、個の集団としての活動の充実が少しずつ図られるようになってきた。	この項目については、全体的に評価が低い。クラス会議と勉強会の時に、10分程、時間を設けて、まずは保育指針の読み合わせからはじめていく。
26	心身の健康に関する領域、人との関わりに関する領域、身近な環境との関わりに関する領域、言葉の獲得に関する領域、感性と表現に関する領域、としてまとめ示されている事を知っている。	33%	47%	11%	8%		
27	健康、人間関係、環境、言葉、表現の各ねらいは2つ、内容は3つは理解し保育を行なっている。	30%	48%	15%	6%		
28	子どもの発達や成長の援助をねらいとした活動の時間については、意識的に保育の計画等において位置付けて実施することが重要である事を知っている。	55%	39%	0%	6%		
29	各領域に示すねらいの趣旨に基づき具体的な内容を工夫し加えてもいいがその場合、それが第1章の1に示す保育所保育に関する基本原則を逸脱しないよう慎重に配慮する必要がある事を知っている。	35%	47%	9%	9%		
30	子どもの国籍や文化の違いを認め互いに尊重する心を育てるようにしたり、又、子どもの性差や個人差にも留意しつつ性別などによる固定的な意識を植え付けることがないように保育を行なっている。	48%	48%	0%	3%		
31	小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うように保育を行なっている。	43%	33%	17%	7%		
32	子どもの生活の連続性を踏まえ家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるように配慮したり、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実が図られるように配慮している。	41%	41%	14%	3%		
⑥	第3章 健康及び安全 1 子どもの健康支援 2 食育の推進	A	B	C	D		
33	顔色や機嫌、表情や動きなどを丁寧に観察したり日頃の様子をしっかり把握して、病気や異常のサインなどをいち早くキャッチできるように保育中は子どもの様子をよく見ている。	74%	23%	3%	0%	全体的に普通以上の割合が多かった。病気や異常のサインなどをいち早くキャッチ出来るように、日頃、子どもの様子をしっかり把握している事の評価が高い。和らかな雰囲気をつくる言葉かけをしながら、食事を楽しむ為の工夫が見られている。	食に関わる保育環境にするために「今日のお昼は何かかな?」「今日は昨日収穫したきゅうりを給食の先生がお料理してくれるよ」など、食事に関心が向くような言葉かけをする。
34	食物アレルギーによる事故を防ぐには、担任、担当の保育者だけでなく調理スタッフまで含めた全職員での対応をし保護者とも連携をとり家庭での様子やかかりつけ医の診断内容など把握している。	66%	25%	3%	6%		
35	保育者や友だちと一緒に同じものを食べる時間を楽しいと感じられる経験や野菜をつくったり、その野菜を収穫する体験を通して食べ物への興味を高め、感謝して食べることを学べるように保育を行なっている。	48%	37%	15%	0%		
36	食事を楽しむために発達に応じた言葉掛けを行い、和やかな雰囲気をつくっている。	75%	13%	13%	0%		
⑦	第3章 健康及び安全 3 環境及び衛生管理並びに安全管理 4 災害への備え	A	B	C	D		
37	園の感染症対策は拡大を防ぐことが第一の目標で、園で流行しやすい感染症の特徴を知って、その発症のサインを見逃さないように心掛け、又、感染した場合は登園停止期間など園の規定を保護者に伝えている。	58%	35%	0%	6%	全体的に普通以上の割合が多かった。小さなヒヤリも見逃さず、情報を伝達することで、早く広く共有できるようになってきた。	定期的に安全点検をするだけでなく、全体研修の時に報告を行い、共通理解や体制づくりを図っていく。
38	保育室内の環境は、常に一定の室温や湿度を保ち、換気や採光などにも注意を払っている。又、エアコン、加湿器、空気清浄機などのフィルター掃除も定期的に行なっている。	59%	32%	3%	6%		
39	事故防止対策は、子どもの目線や好奇心などの発達を踏まえ、園庭の遊具や危険箇所は日常的にチェックしたり、又、不審者の侵入を防止する措置がとられマニュアルがあり訓練を行なっている。	64%	30%	3%	3%		
40	災害に備えた環境づくりとして、物が落下しないよう棚の上など高い場所には物を置かないようにしたり、備蓄品は当番になった職員が定期的に見直しを行なっている。	59%	38%	0%	3%		
41	避難訓練計画等に関するマニュアルが作成され、定期的に様々な避難訓練を実施し、緊急時の対応の具体的な内容及び手順、職員の役割分担がされている。	76%	24%	0%	0%		
⑧	第4章 子育て支援	A	B	C	D		
42	登降園時の会話や連絡帳などを通して保護者が頑張っている姿に寄り添い、励ましたり子どもの育ちを伝え保護者の子育てに対する喜びや充実感を感じられるような支援を行なっている。	63%	30%	3%	3%	保護者に伝える方法やその必要性を判断し、専門分野を活かして職員間で話し合い個別面談も行われている。	園内だけではなく地域に開かれた園を目指す為にも新築保育園が行っている保育を紙面化し、地域の回覧板で回してもらえるように自治会長に相談をする。
43	子どもに障害や発達上の課題がある場合は、なるべく早い段階で専門機関につなぎ客観的な判断を仰ぐことができるよう、園内で会議などを開いている。	64%	36%	0%	0%		
⑨	第5章 職員の資質向上 1 職員の資質向上に関する基本的事項 3 職員の研修等	A	B	C	D		
44	保育所全体としての保育の質の向上を図っていくために、職場内での研修の充実が図られ、又、必要に応じた外部研修への参加機会が確保され、参加している。	67%	22%	4%	7%	職場内での研修の充実が図られ、子どもを中心とした保育を行えるようになってきた。	今後も保育の振り返りをする時間を設け、職員の資質の向上の為に必要な知識や技能を身につけていく。
45	子どもを一人の人間として尊重するという姿勢、そして倫理観を持ち丁寧に、受容的で応答的な保育を行い、常に子どもを主人公として捉え気持ちをどう満たしてあげられるのか考えながら保育を行なっている。	54%	37%	3%	6%		
⑩	新築保育園の基本姿勢	A	B	C	D		
46	園の保育理念や保育目標を理解している。	65%	32%	0%	3%	園の保育理念、保育目標、自由保育の在り方の理解度が高くなってきている。担当制において、同じ児童に対して同じ職員が担当するように配置できている。	年月案の計画に目を通し、前月末の子ども姿と照らし合わせて計画を行い、それを週案に繋げて保育していくことを今後も続けていく。
47	就業規則などの諸規則を理解し、守り、業務遂行にあたって正確・迅速、かつ、こまめに報告・連絡・相談・確認を実践している。	65%	35%	0%	0%		
48	子ども等の個人情報適切に取り扱いつつ、保護者の苦情などに対し、その解決を図るよう努めている。	69%	25%	3%	3%		
49	子どもたちが自ら選択し、自由に遊びを選べる保育に取り組んでいるか。(自由保育:全児童)	55%	35%	6%	3%		
50	食事、排泄、睡眠については、できるだけ同じ児童に対して同じ職員が担当するように配慮しているか。(育児担当制:未満児)	88%	8%	4%	0%		